



山形市内で活躍する若者
男性・女性それぞれに話を伺いました。

七日町二つの動き

持続可能な社会を目指す

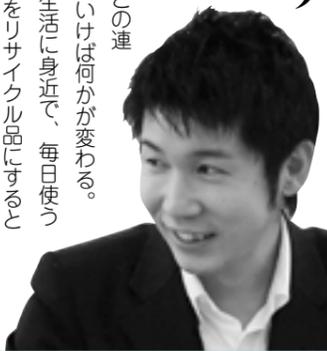
佐久間 太樹さん

七日町商店街青年部の世代交代

自己実現を目指し父の仕事をつこうと思
い、東京からUターン。直ぐに商店街青年
部より入部を勧められる。躊躇はしたも
の先輩の巧みな誘導に陥落。
タイミング良く、その翌年が青年部設立
40周年。全国リサイクル商店街サミットを開
催する事になった。先輩より「若い人に任
せよう」とハトンを手渡されたことにより
おもいきった行動が出来た。そこで菜の花
プロジェクトを知り、NPO知音にリサイ
クルを学び、環境問題の取り組みを目指す。
一人では出来ないが志を一つにした人達
で作り上げていると佐久間氏。

会社設立 アミューズ7&1

「7&1の呼び方は自由ですが、七日町
で一番にしたいと思ってつけました。」
まちづくりには、区切られた見えない壁が
あり厳しい実状も
ある。商業集積も
必要だがあらゆる
手段を執り「町」
を越えて連携を深
めて新しい枠組み
を作っていく必要



がある。外との連
携を深めていけば何かが変わる。
「石鹸は生活に身近で、毎日使う
もの。それをリサイクル品にするこ
限られた資源が循環する。廃油の回収で
いろいろな人と出会うが、そういった輪
を広がっていきたい。」と思いをはせながら
家庭からできる廃油を回収し、環境に優し
い石鹸を製造販売している。
「やりたいことをやる。失敗をしても。
男女どちらかの視点に偏るとなかなか進
まないの、男と女の目で組み立ててい
き活性化を目指す。」と意欲を示す。
持続可能な社会を目指す佐久間氏に
とって、全世界が取り上げている環境問
題と取り組む姿勢は七日町で一番輝いてい
る若者なのではないかと思いをあらたにする。

※菜の花プロジェクトとは
休耕田や、耕作放棄地に菜の花を植え、なた
ね油を収穫しバイオディーゼルの燃料を作る。
製造過程で出た副産物は土壌改良や生ゴミ堆
肥を作る時の発酵促進剤等として利用。花
に集まるミツバチは蜂蜜を作る。菜の花を
通じて地域での観光も兼ねた循環を目指す。

家族みんなの手で作る おいしい野菜

Prana
Interview



休耕地を無くそうと、みんなの工夫と力を合わせ、旬のものを旬の時期に
味わえる色々な野菜を作り、地産地消を進めている人がいます。
最盛期の「赤根ホウレン草」の収穫で大忙しのところ、山形県中山町の
青柳智子さんに取材させていただきました。

PROFILE
あおやぎともこ
青柳 智子さん
三世代にわたり専業農家をしてい
る。米専業から減反調整地を野菜
の転作に成功、直売している。山
形市内の「てっぼう町青空市場」の
現会長として35名の会員で活動。
*山形県指導農業士。

待ちこがれる消費者で賑わい、大盛況
青空市場を始めた動機は？
8年前、東村山農業士会での意見交換会で、
当時村山総合支庁長であった、日野雅夫さんと
指導農業士の板垣平治郎さん（てっぼう町青空
市場）初代会長から、朝取り野菜を中心に市場
で販売してはどうかとの話があり共鳴し、参
加しました。直売の時期は、毎年5月から12月の
第1、第3日曜日の月2回。期間限定で、農作物
加工品等を販売しています。地域の方々から大
好評で、午前8時〜9時まで、1時間だけの開
催ですが、いつも完売します。

米作りから野菜作りに大奮闘
専業農家の現状は、どうですか？
農業従事者の高齢化、減反調整が要因で、休
耕地が山間部、都市部にも目立ちます。先祖代々
の農地を遊ばせておく事は、残念でなりません。
年々、米価の下落で、米作りだけでは生計が成
り立ちません。幸いなことに中山町は、集団で
大豆組合を作り、若い人がオペレーターとなり
上手に減反地を活用しています。若い方に対し
作る喜び、収穫の喜びを機会あることに伝えて
いるところです。



安心して、おいしい野菜作りを
食の安全については、よく考えていますか？
食に対する消費者の関心は、日々高まって
おり、安心して食することは大切なことです。
農業については充分注意し、敵と敵との間隔
を取り、風通しを良くし太陽の恵みをいっほ
い受ける工夫をしています。虫を見つけたら
すぐ取ることを心掛け、手間や暇をおします
努めておりますが、完全無農薬は正直無理
です。特に夏場の収穫の「こつもこし」は、
強い日差しを好み、畑の準備→種まき→間
引き→追肥→わき芽かき→受粉→結実と何
千本も収穫するので、どうしても農薬を使わ
なければならぬ時は、記録し充分なチエッ
クをして、より安全性に注意しています。

家族の絆、共同作業で成り立つ
家族の支え、協力体制は
いかがでしょうか？
私は農家育ちでありながら、農業のこと
をわからず青柳家に嫁ぎました。今日があ
るのは、義父母が手とり足とり、計
り知れない長年の経験と失敗の少な
い農業のノウハウのすべてを教えて
くれたおかげです。
家族一人一人が作業の役割り分担
と責任を持ち共同で支え合うことが
基本にあります。
家族の絆が大切で、毎日朝食後は
向い合うテーブルでお茶を飲みなが
らミーティングをします。義父母は、
野菜を市場に出す前は、準備作業に
追われます。
（智子さんの夫が、自ら進んで私達に
「こーヒーを入れてくれた。」）
青柳さんは、子ども達を幼い頃か
ら市場に連れて、販売、働く喜び、
お金になる体験をさせながらの子育
ては思い出深いと語った。ある日、
息子から「母ちゃん今日何んぼ売れ
た？」「今日は全部売れたよ」と答え
ると「うん」とうなずき満足した笑顔
を見せ、「母ちゃん良かったね」と幼
い心で母を氣遣う愛らしさもあった。
完売したときは、ケイタイで義父母
にも伝え、うれしさをみんなで喜ん
だり、時には売上金以上の出費を覚
悟して、ファミリーレストランに連
れて行った。
子どものことは、今日もがんば
らなければと、いつも勇気づけられ
たと云う。その息子さん、今では、
三代目として農家となり、時の流
れを感じている。

伝統芸能後継者 やまがた舞子のみなさん

伝統である日本古来の文化が西洋文化に
押しつけられそうなのだが、山形では13
年も前に関係者の働きで、伝統芸能後継者
育成のための会社が設立された。通称「や
まがた紅の会」で知られている七日町の山
形伝統芸能振興株式会社である。
同会には現在7名の「やまがた舞子」が
席を置き伝統芸能を学びつつ仕事にはげん
でいる。訪れた「やまがた紅の会」の部屋の
鴨居には、あやかな歴代の舞子さんの写真
が何枚も飾られていて、華やかさを感じる。
そして、舞子は、夢を売る仕事ですと書き出
された「舞子の心得」が壁に貼ってあった。
「京都で舞妓さんを見てあこがれました。」
「高校の先生が先輩（やまがた舞子）を大変
評価していたの共感しました。」お茶、華
道の師範をしていた母親の後姿を見て伝統
芸能の良さを感じて。「会社見学で華やかさ
を感じました。」父の経営する店に先輩が来
店された折り、色々説明してくれました。
その時、家族からの薦めももらいました。
と舞子になった動機はいろいろ。
「この世界は縦社会です。先輩から後輩
へと伝統が引き継がれていきます。一人の
評判の悪さは全体の信用を失います。伝統
芸能の習い事も毎日欠かせません。健康管

理の出来る人でないと務まりません。」と
同社の支配人の沼澤レイ子氏。採用も簡単
ではない。欠員がでるまでアルバイトをや
り1年越しで入社した人も...
話を伺っている間、着物を着こなしてき
ちんと正座している彼女達の言葉遣い、何
気ない所作に古きよき日本を垣間見た思い
だ。着付け、踊り、三味線、唄、書道等を
学んだ彼女達の教養がみちあふれている。
お座敷を通して学ぶことも数多く、出会い
の素晴らしさを話す表情はとても明るく
清々しい。折しも、NHKの朝の番組に京
舞妓の様子が描かれているので、周りから
関心をもってもらえるようだが、「京
都は京都、山形は山形です。」とはっきり
言い切った彼女た
ちの「やまがた舞
子」としての自覚に
力強さを感じた。昨
年はタイに赴き「や
まがた舞子」を披
露。お座敷、イベン
トに参加するにあ
たり自分を磨かな
ければと前向きな
心意気が頼もしい。



インタビューに答えていただいた方々